

浪江町営農者向け鳥獣被害アンケート 結果報告書

令和4年7月 浪江町役場農林水産課

目次

アンケート概要	1
営農地域別農作物被害発生状況	2

第1部：令和3年度浪江町における鳥獣による農作物被害状況

・ 獣種・地区別被害件数	3
・ 月別被害件数	4
・ 防護柵設置による被害軽減効果	5

第2部：鳥獣被害対策における課題と対応

・ 対策したい鳥獣と現状の対策	6
・ 今後の対策意向における課題	7
・ 営農者の生活拠点とニホンザル被害に関する課題	8
・ 防護柵管理の課題	9
・ 自由回答	10
・ 課題に対する対応検討	11

参考：防護柵優良事例

・ 電気柵7段（ニホンザル対策用）	12
・ 電気柵3段（イノシシ対策用）	13

アンケート概要

○目的

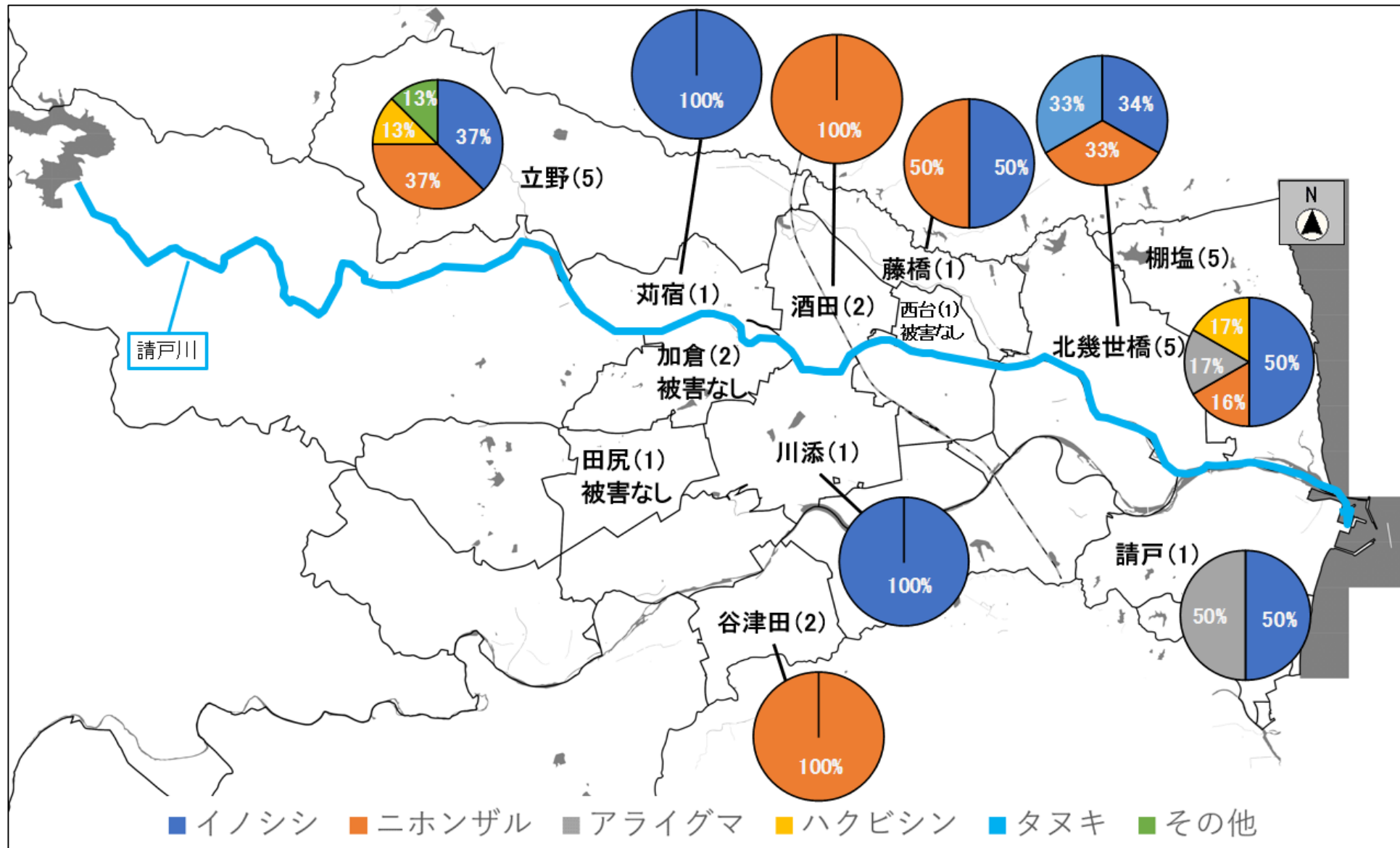
町内の鳥獣被害の実態調査、被害に対する対策の検討、得られた情報の町民への共有を目的として、鳥獣防護柵申請者を対象にアンケートを実施した。

○方法、対象者

- ・ 町内営農者で令和3年度および令和4年4～7月の防護柵貸与申請者
28/49名回答（回答率57%）
- ・ 対象者にアンケートを返信用封筒付きで送付（回収期間：令和4年7/8～8/1）

営農地域別農作物被害発生状況

※ () は回答者数



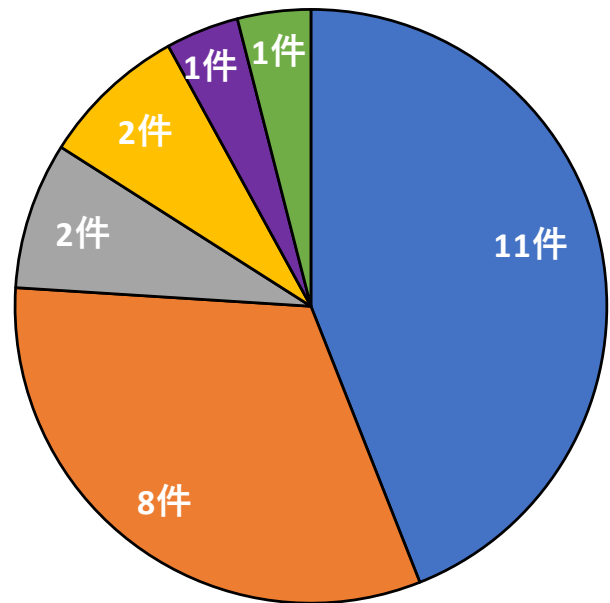
参考
ニホンザル用防護柵
町内優良事例 P12
イノシシ用防護柵
町内優良事例 P13

第1部

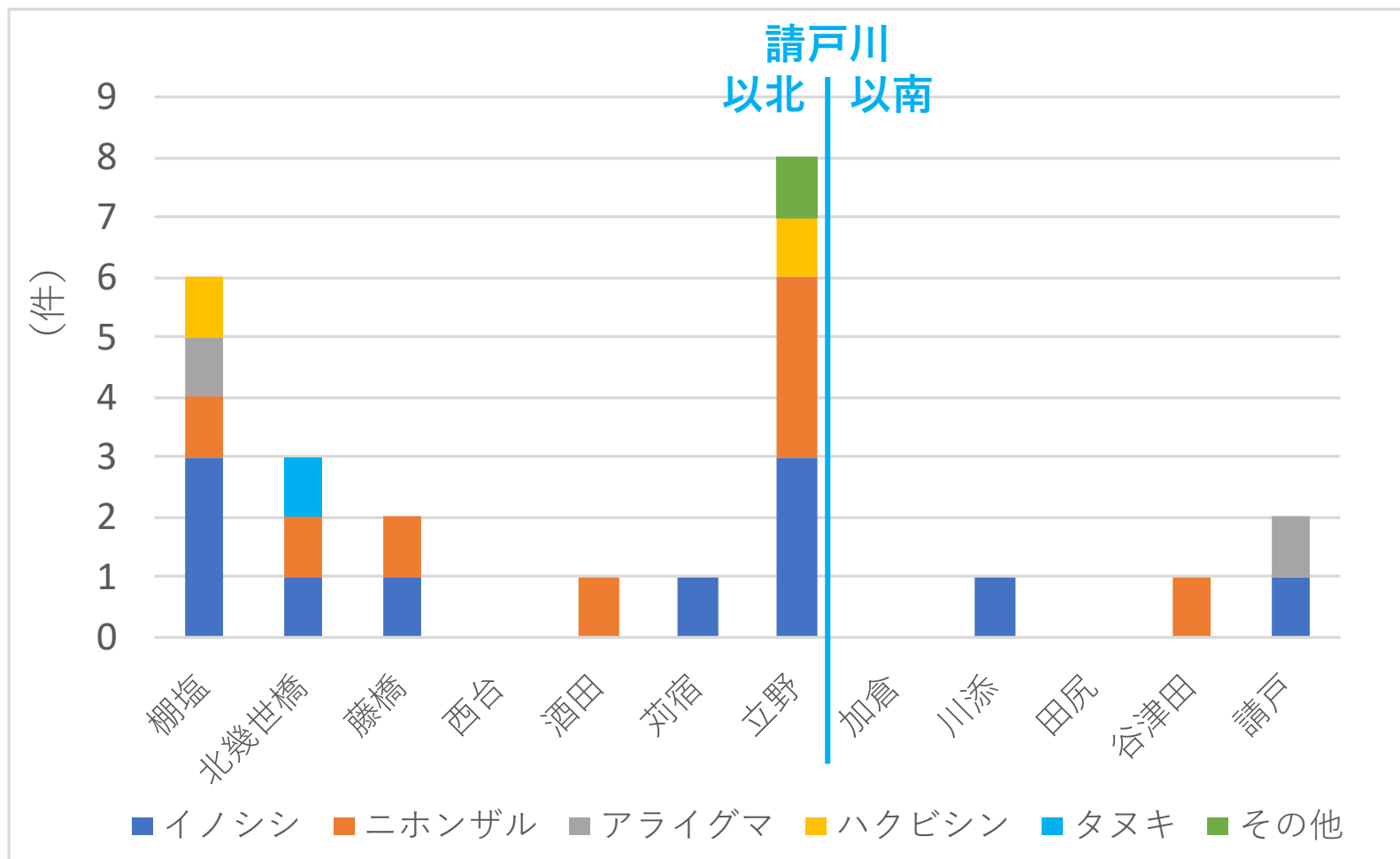
令和3年度浪江町における 鳥獣による農作物被害状況

～新規就農者・営農規模拡大予定農家への情報提供資料～

獣種・地区別被害件数 ※複数回答可



■ イノシシ ■ ニホンザル ■ アライグマ
■ ハクビシン ■ タヌキ ■ その他

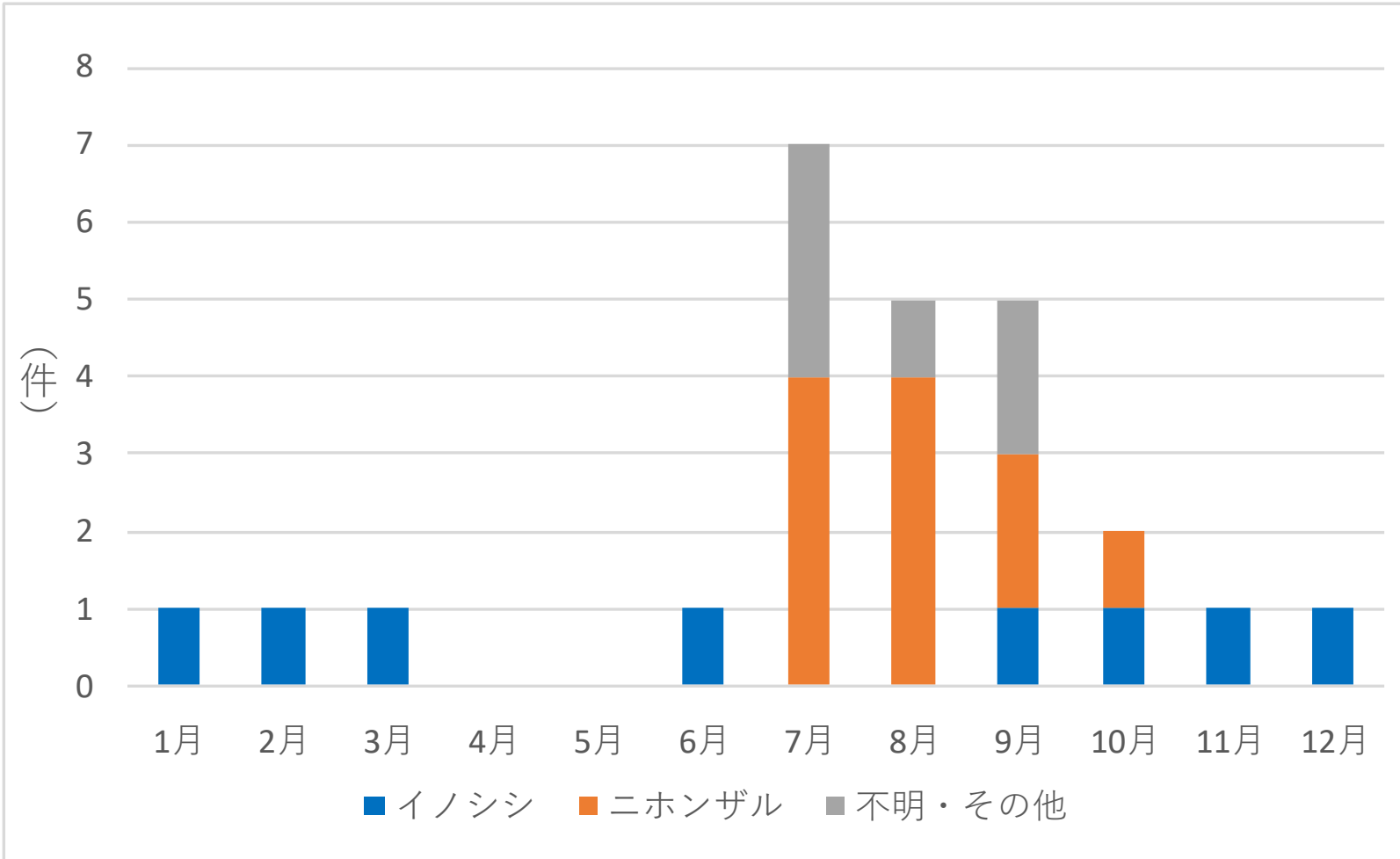


- ・ イノシシ、ニホンザルによる被害が顕著であった。
- ・ ニホンザル被害のほとんどが請戸川以北の地区であった。

※令和3年11月に県道35号線沿いを中心に70頭ほどのニホンザルの群れ（高瀬川群）を確認しているため、今後は請戸川以南でも注意が必要。

月別被害件数

※収量に影響があった被害のみ抜粋



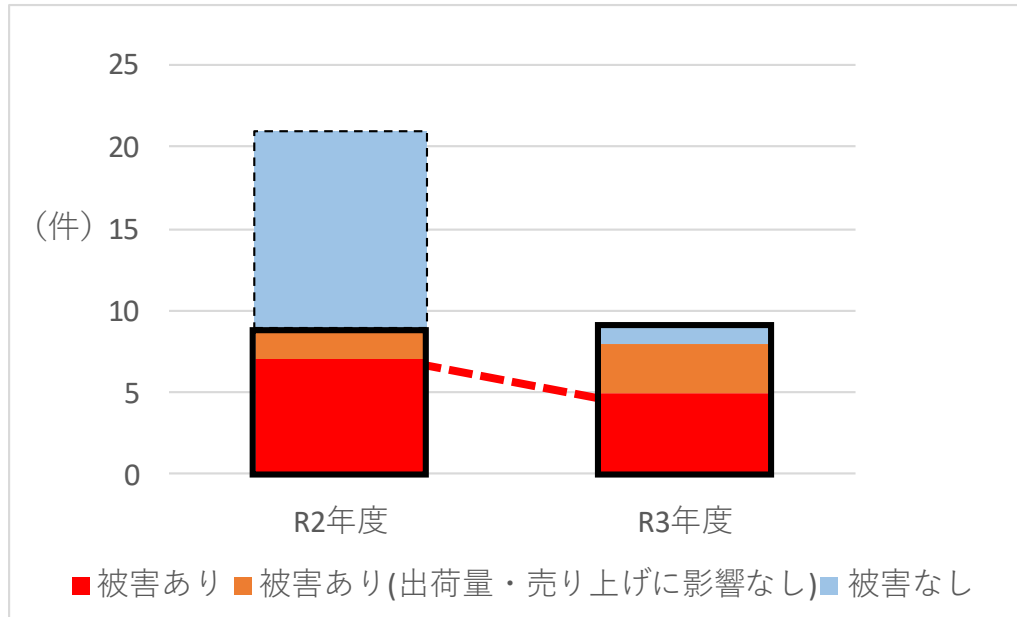
ニホンザルによる被害は7～10月に集中している。この時期は100頭ほどの群れ（川房群）が、請戸川以北を頻繁に利用する時期（7～12月）と重複している。

参考：被害詳細

品目	被害割合	鳥獣種	被害発生月	地区
稲	-	ニホンザル	8～10月	酒田
枝豆	50%	ニホンザル	8月	幾世橋
枝豆	50%	ニホンザル	7月	立野
かぼちゃ	10%	ニホンザル	8月	幾世橋
トウモロコシ	50%	ニホンザル	7月	立野
トウモロコシ	5%	ニホンザル	7月	棚塩
トマト	5%	ニホンザル	7～9月	棚塩
ニンニク	-	ニホンザル	-	立野
ネギ	25%	ニホンザル	-	北幾世橋
ネギ	-	ニホンザル	-	立野
イチジク	100%	イノシシ	10～3月	請戸
稲(畦畔被害)	-	イノシシ	9月	棚塩
かぼちゃ	50%	イノシシ	9月	幾世橋
クロタラリア	100%	イノシシ	6月	棚塩
ナタネ	100%	その他	-	立野
稲	-	不明	9月	棚塩
オリーブの苗	-	不明	-	立野
かぼちゃ	-	不明	7月	立野
きゅうり	10%	不明	7月	北幾世橋
ソバ	95%	不明	-	立野
トウモロコシ	-	不明	8月	棚塩
トウモロコシ	10%	不明	7月～	北幾世橋

防護柵設置による被害軽減効果

※令和3年度に防護柵を設置した方のデータのみを抽出



図：防護柵設置による被害程度の変化

令和3年度のデータは、令和2年度に被害ありまたは被害あり(出荷量・売りに影響なし)と回答した方のデータ(口部分)のみ抽出。令和3年度の防護柵の設置によって被害がやや軽減されていた。

表：令和3年度の被害金額割合

被害があった場合でもその6割以上(6/9件)の被害金額割合は10%以下であり、防護柵の設置によって大規模な被害の発生は防げている農家が多いことが明らかとなった。

R3年度被害金額割合 (被害金額/全体収入)	件数
10%以下	6件
11%以上～49%以下	1件
50%以上	2件

上記の2つの結果の結果から、防護柵がある程度の被害防除効果を発揮していることがうかがえた。

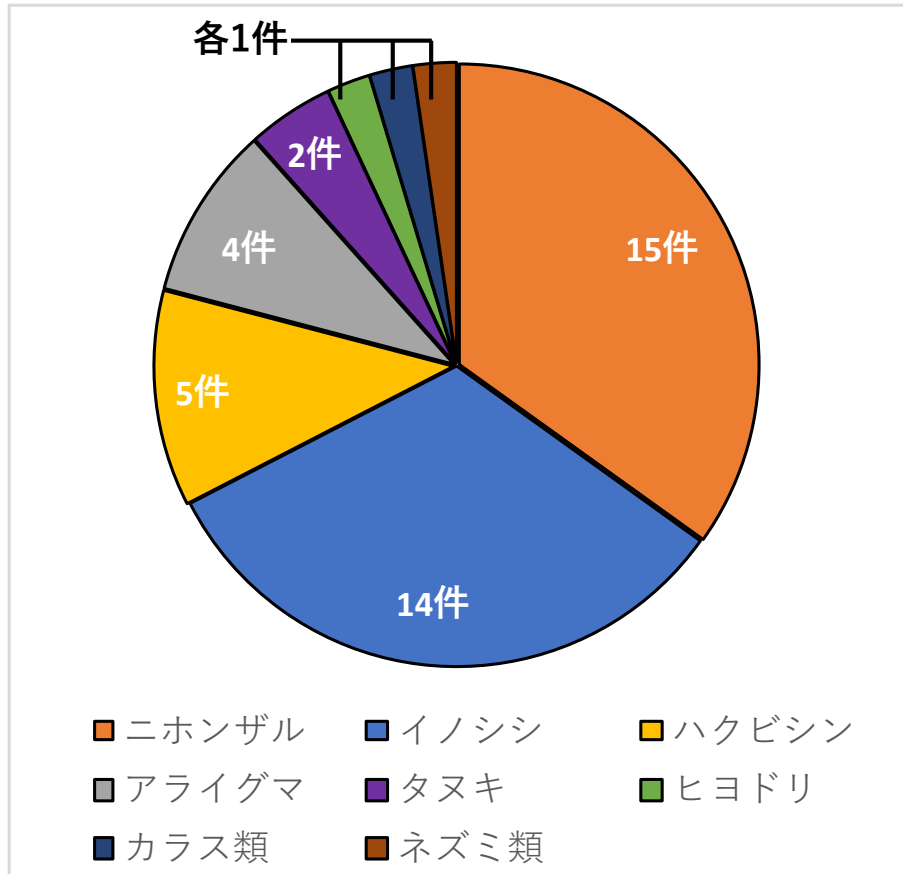
第2部

鳥獣被害対策における課題と対応

～令和3年、4年度防護柵貸与者へのフォローアップ～

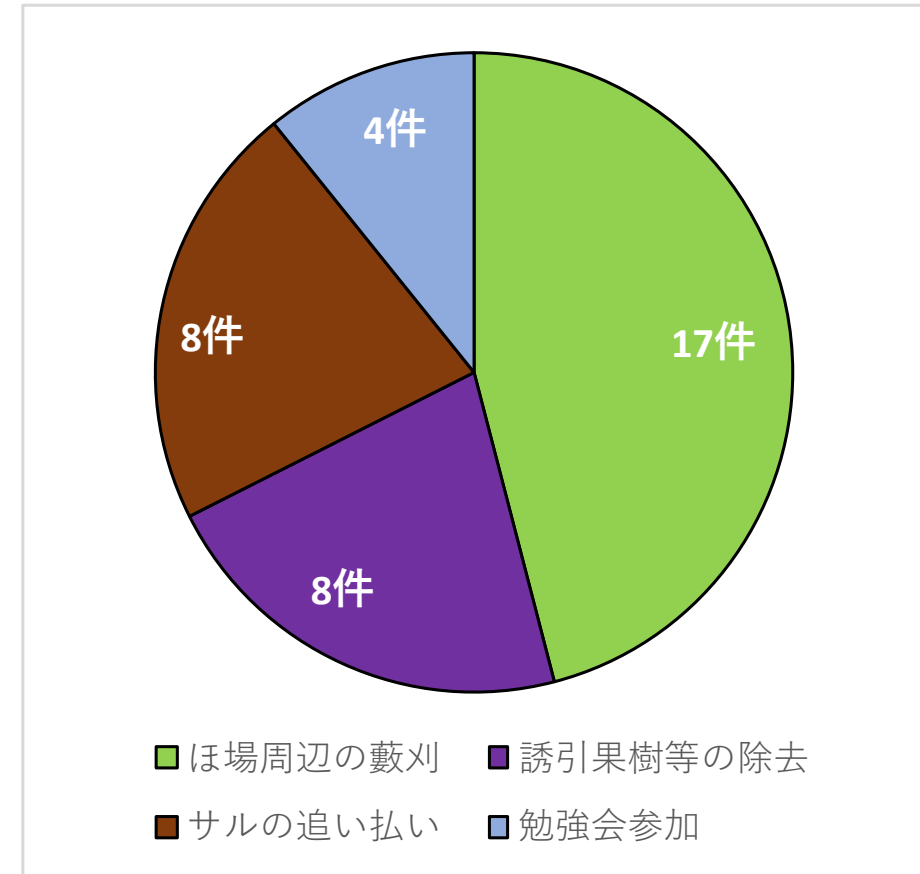
対策したい鳥獣と現状の対策

※複数回答可



対策したい鳥獣種

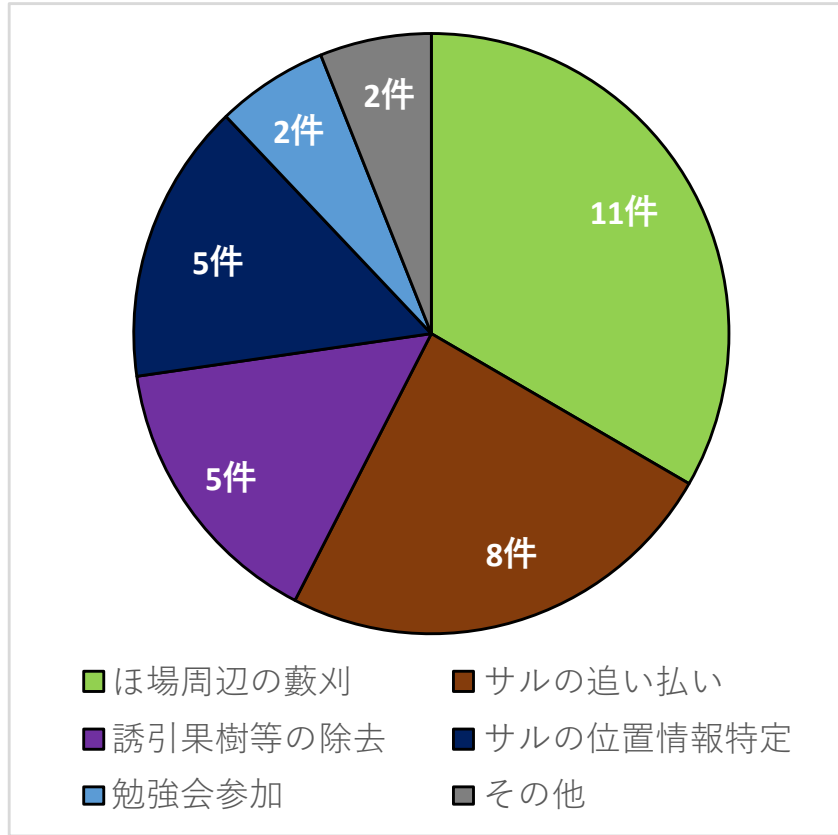
実際の被害割合とほぼ同様に、ニホンザルとイノシシで過半数を占めた。



個人で行っている対策

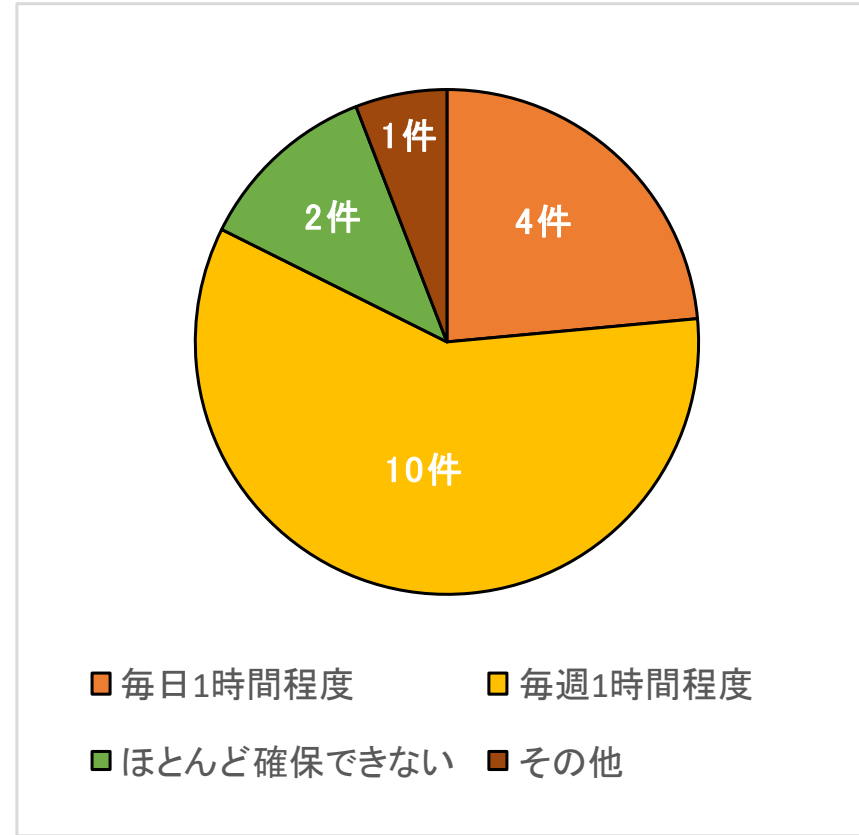
ほ場周りの藪刈が最も多かった。

今後の対策意向における課題



興味のある対策 ※複数回答可

ほ場周辺の藪刈が多く、続いてニホンザルの追い払いが多かった。



鳥獣対策にかけられる時間

「毎週1時間程度」以下の回答が約7割（12/17人）を占めており、対策にかけられる時間は少ない傾向にあった。

現在も実施されており興味のある方も多い、藪刈りや追い払いを効率化できるような補助の検討が必要

営農者の生活拠点とニホンザル被害に関する課題

(参考) ほ場の地域内訳

表：ニホンザル被害の報告者数【生活拠点による比較】

	令和3年度ニホンザル被害の有無		計(人)
	※あるは出荷影響なしも含む ある	なし	
町内	3	12	15
町外	7	5	12

	地区	件数
町内	北幾世橋	1
	幾世橋	1
	棚塩	1
町外	藤橋	1
	立野	4
	酒田	1
	谷津田	1

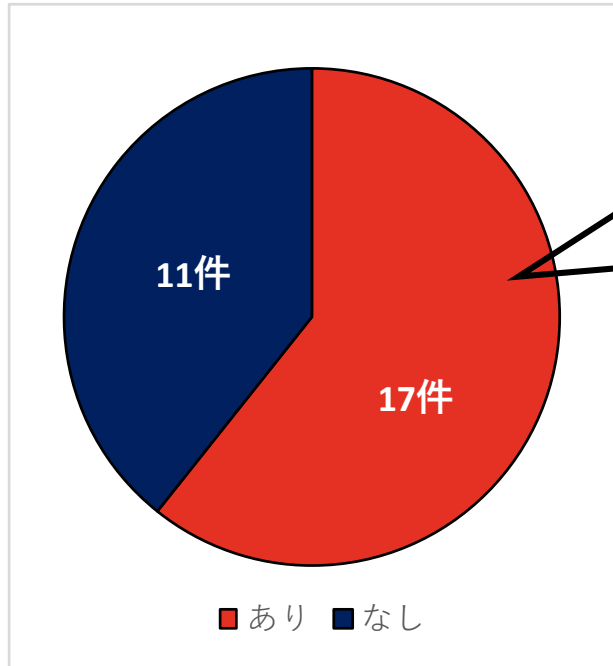
生活拠点が町内の方で被害にあったのは2割（3/15人）だったのに対し、町外の方では約6割（7/12人）の方が被害を受けており、町外の方が被害にあいやすい傾向にあった。

被害の多くは早朝や日没前など、農家がほ場にいない時間帯に多いと推測されるため、通い農家のほ場を守るためには町内の方を含めて、ニホンザルの活動時間に漏れがないような追い払いをする仕組みづくりが必要である。

防護柵管理の課題

表：イノシシ・ニホンザルに対する防護柵の利用状況

	電気柵のみ	WM柵のみ	複合柵のみ	電気柵+WM柵	電気柵+複合柵	WM柵+複合柵	3種全て
イノシシ	2	1	2	2	3	0	1
ニホンザル	0	2	1	3	3	0	1



不安内容

- ・電気柵周りの草刈りや作業が大変、コードを切断する(5件)
- ・サルが複合柵の中に入る
- ・電気柵でサルが心配
- ・複合柵でハクビシンの被害がある。
- ・歩行者が接触した場合の補償がない

イノシシ対策の課題

被害を報告した農家の7割は電気柵を使用しており（表内赤字）、設置後の不安に「電気柵周りの草刈りが大変」という意見が多かったことから、このことが対策上の大きな課題であると伺える。

ニホンザル対策の課題

複合柵を利用していない場合は（表内青字）対策が不十分なので、被害程度に応じて複合柵化を検討する必要がある。

複合柵でも被害があった場合は、電気柵の漏電や柵外側にある樹木等を利用した飛び越え等、侵入経路の特定が課題となる。

図：防護柵設置後の不安の有無

自由回答

個人で行っている対策に関して町に要望したいこと

- ・ネットフェンスの数量が業者と町の積算では差異がある
- ・農業者同様、営農再開に対して、町の鳥獣対策の本気度に期待したい
- ・畦畔修理について、補助対応（小規模でもokしてほしい）
- ・ハクビシン対策に複合柵に設置するネットを支給してほしい
- ・被害防止機具への補助、貸与事業の継続・生息域減少対策（除草を広範囲実施）緩衝地帯設定・小動物捕獲わな設置・営農継続対策販売先確保、収入保持のため保険加入、営農組織立ち上げ研修会
- ・草が繁茂しているのが鳥獣が多いゆえんだと思う。柵の周囲をきれいにしておきたい。除草剤の散布があれば助かります。

鳥獣被害について気になる点があればご記入ください

- ・箱わなの数を増加 捕獲隊員増加、電気柵が必要ない状態まで戻したい
- ・私は烏帽子形（立野）で畑作業を毎日やっているが、小高川の土手などは一度も刈ってもらったことがなく、草刈り作業も大変です。やるところだけでやらないところは全体にやりません。一度見てください。イノシシが来るは当然です。
- ・今まで農作業を行っていた中で鳥獣被害がなかったため、現在気になる点がありません。
- ・最近イノシシ見かけなくなった
- ・現在はほとんど被害が出ていないが、年々被害面積が出ているので、減らしたい
- ・鳥獣による畦畔補修の補助があれば教えてほしい
- ・ネズミの被害に困っている。地中からハウス内に入り住み着いて個体数を増加している。収穫後の農作物ハウス内の作物など、少しずつ被害が拡大している。対策（ペットン、毒のエサ複合）しているが、被害に追いつかない。猫は今は外で飼えない。

※加筆修正なく記載

課題に対する提案

対策したい獣種として多く挙げられた、イノシシとニホンザルに対する町としての対応を以下の通り検討した。

○イノシシ対策用電気柵周りの除草作業の効率化

→次年度を目標にアンケートでご回答いただいた方を中心に、除草剤を使用した作業効率向上の効果検証を実施

○ニホンザル対策用複合柵内へのニホンザルの侵入

→町担当者による効果的な柵の施工管理についての助言およびその周知の徹底、マニュアルの作成、勉強会の開催

※1 ニホンザル対策については追い払い勉強会の実施や追い払い用花火の配布事業を継続して行っています。追い払いの方法については個別でも対応しますので、ご希望の方は農林水産課までご連絡ください。

※2 希望する対策で「ほ場周りの藪刈」が多く取り上げられましたが、今年7月以降イノシシが町内で減少しており、令和4年9月現在では事業化の効果が大きく期待できないため検討から外しております。

防護柵優良事例① 電気柵7段(ニホンザル対策用)

※ほ場管理者に直接話を聞きたい方は農林水産課までご連絡ください。

ほ場場所: 津島地区

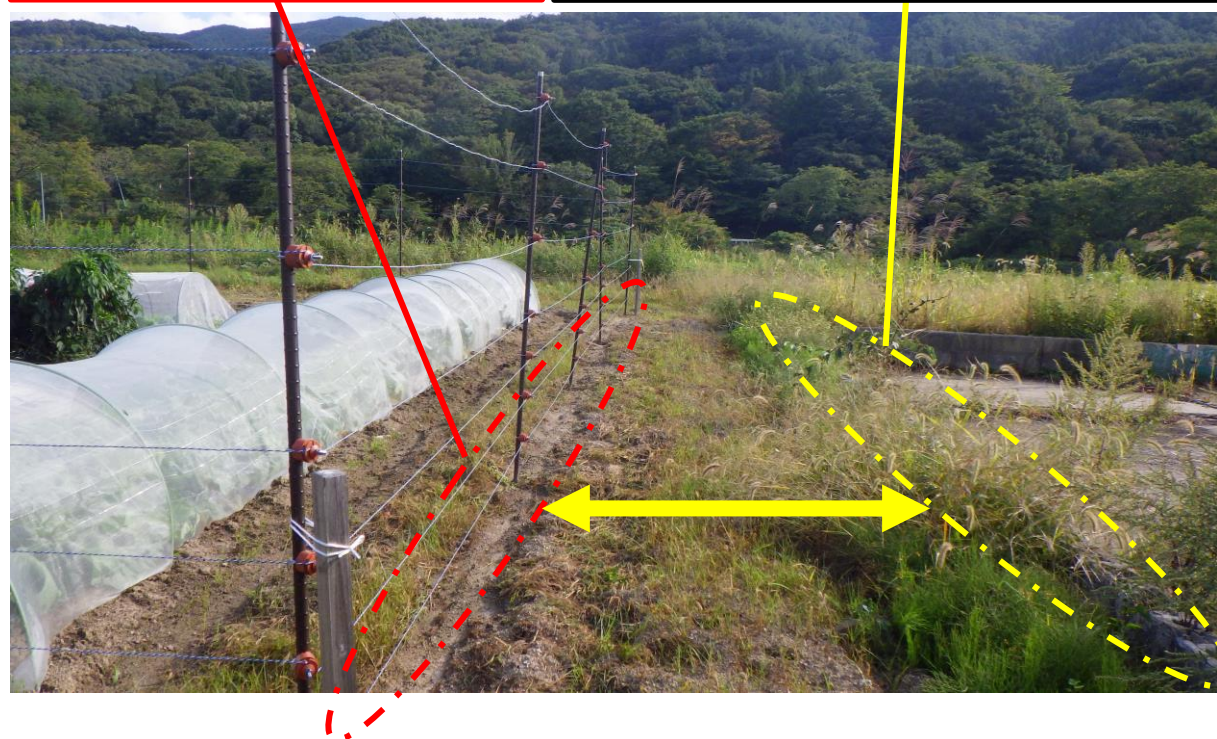
作物: キャベツ、トウガラシ、カブなど

設置状況: 令和3年から作付け開始し今年で2年目。現状はニホンザルの侵入による被害はなし。



①ニホンザルが飛び移れるような障害物から3m以上離している

②下草が刈られており、漏電しにくい状態になっている



③絶縁体(コンクリート)から1m以上地面が確保され、動物が足を置く空間が十分にある。また、人が歩ける空間を確保することで柵の管理がしやすくなる

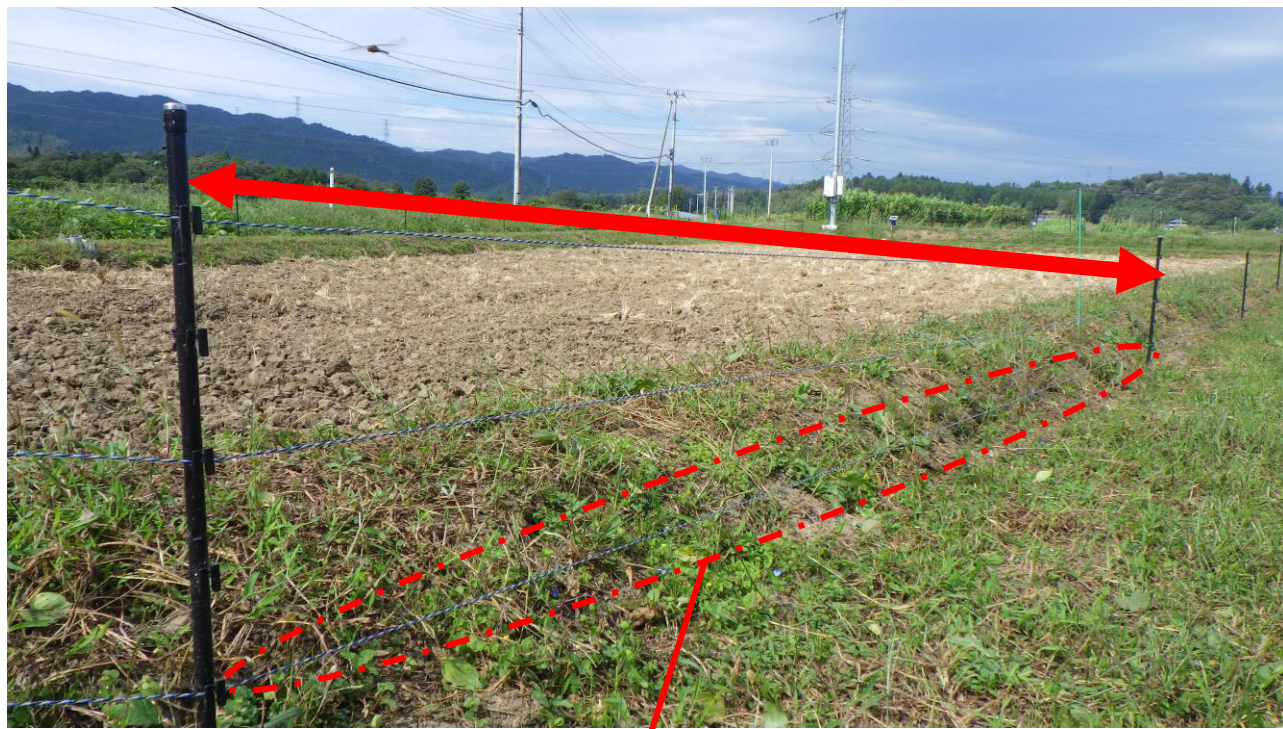
防護柵優良事例② 電気柵3段(イノシシ対策用)

ほ場場所:立野地区

作物:水稲(収穫済み)

設置状況:令和4年度に柵設置、作付け開始。今年度はイノシシ被害なく収穫完了

※ほ場管理者に直接話を聞きたい方は農林水産課までご連絡ください。



こだわりポイント①

ほ場の直線が長い箇所はポールの間隔をあけ(4~5m)、設置時間の短縮。除草作業もしやすくなる。さらに、たるみやすくなった下段の電線を適度に張りを持たせ、漏電防止している

こだわりポイント②

電気柵の角は両側から強く引かれるため、ポールを多めに配置し、強度を上げている

